



てらうちけいすけ  
**寺内慶輔**さん

● 葛生南小6年

### 将来の夢

ぼくの将来の夢はプロ野球選手です。見てくれる人を勇気づけたり、感動を与えられるような選手になりたいです。それには厳しい練習や、トレーニングも必要になると思いますが、中学校に行っても野球部に入り、夢に向かって頑張りたいです。

プロになることができたなら、ぼくがあこがれている選手と同じチームに入り、一緒に活躍できたらいいと思っています。

### みんなの広場に 出してみませんか？

「キラリ★話題の人」「すてきな仲間たち」「めおと人生」に登場していただける方を募集しています。自薦・他薦は問いません。  
※「すてきな仲間たち」「めおと人生」は隔月で掲載します

#### ■ 問合せ

政策調整課広報広聴係

☎(20)3037

## すてきな仲間たち

### 佐野観光ボランティアガイド協会



#### ～「おもてなし」の心を届けます～

平成21年に、市主催の「佐野観光ボランティアガイド養成講座」修了者で組織したボランティア団体です。

市の伝統、歴史、文化を身近に味わい、楽しい思い出を作っていただけるよう市内外の方々に観光案内を実施しています。他にも1・2月に佐野市観光物産会館内、3月のかたくりの花のシーズンには佐野駅前交流プラザ「ばるぼーと」1階に臨時観光案内所を開設して、お客さまにおススメの観光ルートなどの情報を提供しています。

随時案内の申し込みは希望日の2週間前まで。

ぜひ、市内在住の方も「ふるさと再発見」に「佐野ふるさとガイド」をご利用されてはいかがでしょうか？

○連絡先 事務局・佐野市役所観光課内

☎(27)3011・☎(22)8831

(活動時間・場所)

定例会隔月・案内は随時行っています



#### 今回の表紙 「申告が始まります」

2月から確定申告、市・県民税の申告が始まります。

源泉徴収票など申告に必要なものを、事前にしっかりと準備して正しい申告をしましょう。

なお、日程はP. 4に掲載しています。

いいづかまさはる  
飯塚正春さん  
(多田町)



キラリ★  
話題の「ひと」

○プロフィール  
現在68歳  
高校時代講道館柔道初段、  
在学中に弐段に昇段  
平成6年に六段、平成19年  
に七段を取得  
現在、日本体育協会スポー  
ツ(柔道)指導員を務め、田  
沼町の道場の師範を務める。

精力善用、  
自他共栄

飯塚さんは田沼町にある道場で小中学生などに柔道を指導しています。今年1月6日から寒稽古を、8日には鏡開きを行い、その際には小中学生たちとその保護者などで餅つきを行いました。子どもたちはつきたてのお餅を美味しそうに食べていました。

飯塚さんは柔道を指導し、いろいろな大会に参加する傍ら、4月には唐沢山でのハイキングやパークキューを、12月にはクリスマス会を行っており、指導する子どもたちとの交流を楽しんでいます。

飯塚さんの柔道に対する心構えは、講道館を興した嘉納治五郎氏(初代日本オリンピック協会会長の主唱する「精力善用、自他共栄」を基本としています。小中学生たちの技と心を磨くと共に、日常生活の中で応用していく力を育てたいという思いを込めて指導しています。そんな中からオリンピックや国体に出場できるような選手を育てることが目標です。武道としてだけでなく、教育の一環として柔道を教育されているので、保護者の方々もいろいろな面で協力されていますし、今後ますますの道場の発展を期待したいとこ



▲道場にて。指導する皆さん

もちろん飯塚さんご本人の柔道の腕前も立派なもの。現在講道館柔道七段の段位をお持ちであり、アジアレベルのマスターズの大会では準優勝を飾るなど現役の柔道家として活躍されています。

飯塚さんが信奉する「精力善用、自他共栄」は己を最大限生かし、健全な気力を養うと共に、相手を敬う礼の精神を身につけ、自分だけでなく、他人も共に栄える世の中にしようということを意味しています。

飯塚さんの長年の指導により、市内にも数多くの門下生がいます。この佐野市において、「精力善用、自他共栄」が少しずつ根付いていくことを期待しています。

(市民記者 佐藤久夫)

市長からの  
メッセージ



暦の上では間もなく立春を迎えますが、まだまだ寒い日が続きます。また空気が乾燥しており、インフルエンザも流行しています。市民の皆さん、こまめに手洗い、うがいをするなど予防をし、体調管理に十分注意してください。

さて、1月8日には成人式が開催され、本市で1250人が成人となりました。式典で私は、今年の新成人の皆さんに「絆」という言葉を贈りました。現在の社会状況は放射能汚染や景気の低迷など、決して明るい話題ばかりではありません。しかし困難な時代だからこそ、お互いを思いやり、協力する事で、問題を解決していかなければなりません。人々が力を合わせて、震災からの復興に取り組んでいる日本の姿を忘れず、「感謝の心」「家族愛」「地域の連携」といった人と人との「絆」を胸に、これからの人生を歩んでいただきたいと申し上げました。

このことは、若い人たちに限らず、今後のあるべき地域社会の姿であると思っています。日常の課題に対して、それぞれの地域が主体的に、相互に連携を持ちながら対応していくことが求められます。昨年、全町会との懇談会を実施して、私はこの絆の大切さを強く感じました。そのために行政として何をすべきか、どういう仕組みを構築できるのか、年頭から私の胸中に去来しています。

2月5日には、第62回大澤駅伝競走大会が開催されます。年末年始には、毎年、都大路や箱根など駅伝競走でにぎわいますが、それと同じくらい歴史と伝統があり、全国に誇れる大澤駅伝大会です。寒風に負けず激走するランナーの皆さんに熱い声援をおくりましょう!

岡部正英